

学校だより

令和5年4月

戸山

新宿区立戸山小学校

考える・春 ver.



校長 百合野 壽郎

令和5年度が、始まりました。残念ながら満開の桜＝入学式・始業式という状況は、昨今の地球温暖化のせい、やや薄れつつありますが、青々と茂った木々の緑が、元気な子ども達を、やさしく迎えてくれています。マスク着用の推奨も今月からなくなりましたが、まだまだ予断は許せません。三密や換気・消毒などは継続しながらも、徐々に子ども達の学びの環境の幅を広げていきたいと考えています。ご理解のほどよろしくお願いたします。

さて、ある日突然世界中に広がった新型コロナウイルスは、社会全体に限らず、教育の場面でも多くの事を考える機会が与えられました。コロナウイルス自体は、我々人類にとって大きな脅威であり、それを称賛するものではありませんが、その克服のために、今まで当たり前と思われてきた教育活動が大きく変わったことも事実です。GIGA スクール構想・行事や会議の精選・多様な学習方法の実践等、とかくスピード感の遅い教育界においてこれだけのことが、わずか1・2年で全国で行われるようになったのは、私の教員経験の中でも初めてのできごとです。「子ども達の学びを止めない」を目標に、多くの先生方が、考え、知恵を出し合い、工夫して教育活動に取り組んできました。全国の教育関係者が一致団結した貴重な成果と言えるでしょう。

フランスの哲学者パスカルは、「人間は自然のうちで最も弱い一本の葦（あし）に過ぎない、しかしそれは考える葦、である。」と述べています。

これは、葦（イネ科の多年草で河川や湖沼などの水辺に生えている背の高い植物）のように人間はひ弱なものであるが、思考（考えること）を行う点で、他の動物とは異なっている。と言う意味です。

困った時・悩んだ時・苦しい時にどうすればよいのか。何から始めたらよいのか。どこに行けばよいのか。誰に話せばよいのか。

人はまずは、「考える」ことによって問題を解決することができます。しかし、何の情報もないところで、漠然と考えることは不可能です。そのためには、いろいろなものを見たり聞いたり、多くのことを知り、体験することが必要です。そして、それは一人ではなく、多くの人間の考えや技術が集合することによって、より完成度を高めて、そしてその積み重ねが、「考える」力をさらに強固なものにしていくのです。これは学校での学びそのものと変わりません。

今年も戸山小学校では、子ども達の「考える」学習を進め、いかなる状況にあろうとも自分の力で対応できる力を身に付けられるように指導していきます。本年度もよろしくお願いたします。



